

第1回国際観光都市としての機能整備に関する研究会  
議事要旨

1 日時 平成29年8月3日(木) 午前9時30分から11時まで

2 場所 愛知県自治センター5階 研修室

3 出席者(敬称略・五十音順)

【委員】

井澤 知且(名古屋学院大学現代社会学部 教授)

黒田 達朗(名古屋大学大学院環境学研究科 教授)

林 大策(愛知淑徳大学交流文化学部 教授)

水尾 衣里(名城大学人間学部 教授)

村上 心(椙山女学園大学生生活科学部 教授)

※ 内田俊宏委員は欠席

【オブザーバー】

常滑商工会議所 牧野 克則会頭

4 議題

国際観光都市としての機能整備を目指した調査研究について

5 議事概要

事務局から資料について説明した。

主な意見は次のとおり。

## 委員等からの主な意見（概要）

（井澤委員）

- 地域の魅力、都市の魅力向上に力を入れて、腰を据えて国際観光を進めていくという戦略を明確に打ち出していくことが必要。

（林委員）

- 訪日外国人客数の推移は観光の最大トピックスで、日々報道もされているが、一般観光客の視点が多く、MICE という言葉はあまり出てこない。国際観光の推進には、MICE の視点が大きいということをしっかりと理解し、考えていただくことが重要。

（水尾委員）

- 多くの外国人が日本を訪れるようになったが、日本がかつて、外国人にもっと来てほしいと思っていた姿とは少し違うのではないだろうか。どうありたいのか、そういう姿を考えていかなければならない。
- 中部地域はアフターコンベンションが弱い。また、諸外国から見て、コンベンションセンターが不足している現状が長きにわたって変わっていない。

（村上委員）

- ハード施設と同時に、受入体制や、施設を使ってもらうためのプロモーション、その都市の魅力向上などが必要。愛知の魅力をしっかりと作り上げてもらいたい。

（井澤委員）

- IR を考える場合、カジノは MICE 施設のエンジンとしての役割を担うということになるが、それに伴う不安をどう解消するのかは重要なテーマ。地域の不安を解消していくためには、情報を提供し、徹底して説明していくというプロセスが重要。
- 和歌山県では、熊野古道などを IR の施設内ではなく、外の資源をうまく組み込んでやっていこうとしている。愛知県全体の魅力アップとセットで、うまく連携させて、併せて整理、提案するということが求められる。

（林委員）

- IR には賛否両論があるので、負の側面にも真摯に向き合うことが大切。
- ものづくり産業に支えられてきた反面、観光を縁遠い気持ちで見ている方が多いように感じるが、観光産業が増えていく中、日本で3番目の都市である、この地域が担っていく責任がある。そういう意味で、IR にトライしていくことも重要。
- IR は、エンターテインメント施設、コンテンツの提供などを行う場でもあるということを知元の方にも理解していただけるよう、説明も、丁寧にやっていく。

（水尾委員）

- ラスベガスでは、カジノ収益が減少する代わりに、エンターテインメント部門が収益を上げており、家族層が増えた。海外では、日本のポップカルチャーなどの新しい文化も人気が高く、そういった要素も魅力的である。愛知の場合は、産業の集積地であることを活かした目玉を考えるとよい。

(村上委員)

- IR は、課題は沢山あるが、それに対処することが大前提であり、しっかり対応したときには税負担なき公共政策として有効である。国内競争に勝てるような MICE 拠点構築を推進してもらいたい。
- IR による経済効果が、愛知全体の観光産業、観光産業から波及される産業などに行き渡るよう考えていくべき。施設だけが儲かるということのないように留意する必要がある。
- 20 年、30 年、50 年後の愛知にとってどうかという、長期的に持続可能な IR という視点をもって計画をすべき。

(黒田委員)

- アメリカでもカジノ中心のまちづくりをしているところが何か所かあるが、カジノだけのところは衰退。持続可能な施設、地域おこしを続けていくことが重要。
- 以前は国際展示場と会議場を別々に作っても問題ないということで、各地で整備されたが、やはり今は地理的に近い位置にないといけないという動向がある。
- 他国に行ったとき、周りの街を見てみたいという思いはある。知多半島は今でも観光資源が沢山あり、プロモーションの際には、知多半島、その先として、名古屋、さらには昇龍道を併せて考えてもらおうとよい。MICE は起爆剤であって、最終的には観光も含めた外国人の誘致というのがあると思う。地元一体となったプロモーションを図っていかなければいけないかなと思う。

(牧野会頭)

- 中部国際空港周辺には、外資系のものづくり関連企業の立地も進んでいる。ものづくり産業の拠点として、世界中から研究者や企業の人に集まっていただき、常時 MICE やコンベンション機能を活用してほしい。MICE などを通じて国際的人材の育成拠点となることを期待している。
- 常滑の地域事情にも、十分配慮していただけるとありがたい。

(井澤委員)

- 空港島は隔離され、閉じているから、経済効果を高めるためには、地域全体に開いていかなければいけない。閉じることによる安心感と開くことによる地域全体、名古屋圏全体への経済波及のバランスが重要であり、双方の視点での対策が必要である。

(林委員)

- 地域の未来像のようなものをしっかりと見せていくことが必要。

(水尾委員)

- 広域的に見て、常滑の空港地域が日本にとって、愛知にとって、周辺地域にとってどんな役割を果たすのか、そういった議論をしてほしい。
- 治安が安定していることは、日本全体の良さ。

(村上委員)

- 20 年後、30 年後の愛知が、世界のデスティネーションになるという姿を描くことが必要。IR はそういう手段として、どういうブランディングをするのか。また、どういう役割を果たすのか、ということが不可欠。